

翻訳文学の視界

近現代日本文化の変容と翻訳

井上 健 編

▶ A5判・288頁／定価2,625円 (税5%込) ISBN978-4-7842-1600-0

2012年1月刊行予定

翻訳文学とは何であるのか——。明治維新後の日本にとって翻訳は、西洋文明に学び、近代国家の骨格を整えるために必要な、国家的事業であった。外国文学の翻訳は近代日本文学の形成に大きな影響を及ぼし、そして今日、すべての日本現代文学は、執筆される時点ですでに翻訳されることを想定しているといえよう。

直訳と意識、翻訳者の役割、原作者の言語意識……。言語が自国文化と深く関わる以上、翻訳文学はつねに複雑な要素をはらむ。最前線で活躍中の研究者たちが、比較文学・比較文化研究の立場から翻訳文学の諸相を語り可能性を探る。

テキスト・入門書に最適!

内容目次

第一部 近代日本の翻訳文学

- 明治二〇年代の翻訳と日本近代文学の《生成》 山田潤治 (大正大学専任講師)
- 魔術的ファンタジーとSFの交叉点——春浪・『アラビアンナイト』・ヴェルヌ—— 私市保彦 (武蔵大学名誉教授)
- リアリズムの翻訳 翻訳のリアリズム 柏木隆雄 (大手前大学副学長)
- 文学の翻訳から翻訳文学へ——昭和初期のヘミングウェイ、プースト翻訳を事例に—— 井上 健 (東京大学教授)

第二部 翻訳者の役割

- 現代語訳の日本語——谷崎潤一郎と与謝野晶子の『源氏物語』訳—— 中村ともえ (静岡大学講師)
- 翻訳におけるジェンダーと〈女〉の声の再生——NaomiからKitchenまで—— 金 志映 (東京大学博士課程)
- 翻訳者の透明性について——村上春樹訳『グレート・ギャツビー』をめぐる—— 上西哲雄 (東京工業大学教授)

第三部 翻訳文学の位相

- 世界文学としての翻訳文学——ゲーテ、マルクス、シュピッツァ、モレット—— ソーントン不破直子 (日本女子大学名誉教授)
- 翻訳の詩学・詩学の翻訳——近現代日本詩歌の英訳を中心に—— リース・モートン (東京工業大学教授)
- 原作者に《なる》——ボルヘス『ドン・キホーテ』の著者、ピエール・メナール』から—— 諸坂成利 (日本大学教授)
- 母語の外に出ること:エクソフォニーの可能性をめぐる——多和田葉子と〈翻訳〉について—— 依岡隆児 (徳島大学教授)

思文閣出版

〒606-0089 京都市東山区元町355 tel. 075-751-1781 fax. 075-752-0723
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail: pub@shibunkaku.co.jp

注文票		発行: 思文閣出版		(京都 取引コード 3402)	
冊数	冊	翻訳文学の視界	本体2,500円(税別)	ISBN978-4-7842-1600-0	
お名前			tel		
			e-mail		
ご住所	〒				
送本方法	<input type="checkbox"/> 書店経由 (このちらしを書店にお渡し下さい) <input type="checkbox"/> 代 引 (書籍代+送料を現品と引き替えにお支払い下さい)				書店番線印

言語のあいだを読む 日・英・韓の比較文学

大澤吉博著

東京大学大学院在職中に急逝した氏の研究成果。その主題は夏目漱石を中心とした日本文学の他言語への翻訳、外から見た日本文学と日本文化、そしてイギリスと世界との関わりである。30年以上にわたる多彩な研究の全体を広く学界に提示する遺稿集。

▶A5判・550頁／定価9,450円

ISBN978-4-7842-1524-9

越境する漱石文学

坂元昌樹・西横偉・福澤清編

熊本大学の研究プロジェクトによる漱石論集の第3弾となる本書では、第1部において、漱石と世界文学との関わりを考察。第2部において「越境」の実践としての「漱石と熊本」という視点から、漱石の熊本時代の評論、エッセイ、交友関係を考察する。

▶46判・284頁／定価2,940円

ISBN978-4-7842-1565-2

漱石文学の水脈

坂元昌樹・田中雄次・西横偉・福澤清編

漱石文学がどのような思想と背景のもと生み出され、日本を含む東アジア文化圏においてどのように受け入れられ、どのような影響を与えてきたか、「<漱石>への水脈」と「<漱石>からの水脈」という二つのテーマから検証する10篇。熊本大学の教員を中心とした共同研究。

▶46判・280頁／定価2,940円

ISBN978-4-7842-1506-5

漱石と世界文学

坂元昌樹・田中雄次・西横偉・福澤清編

「世界文学において漱石をとらえなおす」という視点のもと、夏目漱石が世界文学を意識し、そこから多大な影響を蒙ったことの検証だけでなく、漱石がその後の世界文学に与えたインパクトや、世界で漱石文学が翻訳のかたちでいかに受容されたかなどもを見極める9篇。

▶46判・260頁／定価2,940円

ISBN978-4-7842-1460-0

夏目漱石における東と西 大手前大学比較文化研究叢書4

松村昌家編

明治の文豪・夏目漱石の小説において、そこに織り込まれた西洋の概念と東洋の概念の葛藤、直接影響を受けた小説との比較、イギリスの事物の受容の様相など、気鋭の研究者たちによる漱石文学論。

【内容】小説美学としての「非人情」／『吾輩は猫である』におけるメランコリーと神経衰弱／奇人たちの饗宴／漱石の薔薇戦争など

▶A5判・208頁／定価2,940円

ISBN978-4-7842-1335-1

幸田露伴の世界

井波律子・井上章一編

従来、全面的な研究がなされていない幸田露伴について、さまざまな分野の研究者が集まり、小説や評論など文学面はもろんのこと、都市・遊技・旅行・自然観察・人生論等々の著作を通じて多様な角度から露伴にアプローチする。国際日本文化研究センター（日文研）で行われた共同研究の成果13篇。

▶A5判・320頁／定価5,250円

ISBN978-4-7842-1444-0

中国語圏における厨川白村現象

工藤貴正著

厨川白村の著作が彼の死後、日本では急速に忘れ去られたのに対し、中国語圏（中国、台湾、香港）の知識人たちの間では、今なお知名度が高い。いかに受容・翻訳され、その特徴はいかなるものだったか、基本的資料を示しながら考察。厨川を軸とした日中台の文学交流史。

▶A5判・370頁／定価6,300円

ISBN978-4-7842-1495-2

***中国文人画家の近代 豊子愷の西洋美術受容と日本西横偉著**

豊子愷は民国期から人民共和国期まで世相人情を反映する抒情漫画や随筆の名手として周辺雑事から文学・美術・音楽などを題材に軽妙な語り口の散文を遺した。「中国」「日本」「西洋」という三つの視点を設け、豊子愷が日本を通して西洋美術を受容したことの意義を問うと同時に「文化の越境者」彼の本質に迫り、20世紀日中知的交流の軌跡を検証。

▶A5判・384頁／定価5,775円

ISBN4-7842-1230-2

***谷崎潤一郎と世紀末 大手前大学比較文化研究叢書1**

松村昌家編

大手前大学で行われた日本比較文学学会全国大会のシンポジウムをもとに海外における谷崎評価も踏まえ、比較文学的見地から谷崎の文学に迫る。谷崎が世紀末的デカダンスの洗礼を受けたとされるノルダウの「世紀末」とクラフト＝エーピングの「マゾヒズム」の翻訳を収録。

▶A5判・212頁／定価2,940円

ISBN4-7842-1104-7

阪神文化論

大手前大学比較文化研究叢書5

川本皓嗣・松村昌家編

歌枕に詠まれたいにしへの芦屋の浜、歌人や作家に愛され、その作品に影響を与えてきた芦屋・西宮など阪神間の風土、さらに開港早々慌ただしい歴史の舞台ともなった神戸——文学、歴史から阪神文化の神髄に触れる。【目次】歌枕の詩学／松瀬青々論／昭和初期の神戸における青年団運動について／A・B・ミットフォードと神戸事件 ほか

▶A5判・290頁／定価3,360円

ISBN978-4-7842-1398-6

ヴィクトリア朝英国と東アジア 大手前大学比較文化研究叢書3

川本皓嗣・松村昌家編

近代化過程における日本・中国・朝鮮と英国との文化交流誌。【目次】ムスメに魅せられた人々／交差する両洋の眼差し／福沢諭吉におけるW・バジョット問題／ミルのOn Libertyは明治日本と清末中国でどのように読まれたか／中村正直訳『自由之理』と嚴復訳『羣己權界論』／『イラストレイテッド・ロンドン・ニュース』の東アジアなど

▶A5判・280頁／定価3,360円

ISBN4-7842-1297-3

視覚芸術の比較文化 大手前大学比較文化研究叢書2

武田恒夫・辻成史・松村昌家編

源氏物語からラファエル前派まで、日欧の古代から現代までの文学テキストと絵画・工芸などとの関わりを、まるで謎解きのように繙いていく。文学と視覚芸術の交差点。【内容】物語絵から物語図へ／文芸を着る／むさしの、そして『武蔵野』まで／ゴッガン作《デ・ハーンの肖像》に描かれた書物／マンチェスター美術名宝博覧会 など

▶A5判・256頁／定価2,940円

ISBN4-7842-1187-X

一九二〇年代東アジア文化交流 I・II

川本皓嗣・上垣外憲一編 大手前大学比較文化研究叢書6・7

明治期の交流に比べて研究の事例も少なく、未開拓の部分も多い1920年代の東アジア文化交流の様相を、当該各国の研究者を結集することによって明らかにする。

【I】▶A5判・232頁／定価2,940円

ISBN978-7842-1508-9

【II】▶A5判・274頁／定価2,625円

ISBN978-7842-1584-3

俳句とジャポニスム メキシコ詩人タブラーダの場合

太田靖子著

90年前にスペイン語でハイクを書いていた詩人、ホセ・ファン・タブラーダ。彼がいかにして日本の俳句を知り、ハイクを創作するに至ったかを明らかにし、日本の俳句の本質へ如何に接近したか、その評価を試みる。俳句をスペイン語圏に広めた第一人者でありながらも、いまだに研究の乏しいタブラーダのハイク作品に光を当てて一書。

▶A5判・328頁／定価6,090円

ISBN978-4-7842-1404-4

滅びと異郷の比較文化

日本比較文学会編

第一線で活躍する比較文化研究者が「滅び」と「異郷」のヴィジョンを東西の文学・文化・美術に探る。

【目次】I 滅びのヴィジョン／滅びとエロス・滅びと再生 II 異郷のヴィジョン／遙かなる異郷・訪れた異郷・見出された異郷

▶A5判・516頁／定価14,700円

ISBN4-7842-0821-6

フェノロサ社会論集

山口静一編

明治期の美術運動で著名なフェノロサだが、当初の目的は東京大学でミル、スペンサー、ヘーゲルなど社会思想を講じることだった。本書では日本の学会誌や新聞・総合雑誌に発表された政治、経済、社会・宗教、哲学・比較文化論等に関する主要な論文 講演13篇を収める。

▶A5判・330頁／定価8,190円

ISBN4-7842-1028-8

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。